

平成28年度国立大雪青少年交流の家
第3回施設業務運営委員会利用促進部会議事要旨

日 時 平成29年3月9日(木) 14:00～
場 所 大雪青少年交流の家 3階 第2研修室

運営委員出席者	： 笠井委員長、山中委員、十川委員、尾崎委員、岩城委員、松倉委員	計	4名
欠席者	： 西村委員、田中委員	計	2名
国立大雪青少年交流の家出席者	： 秋山事業推進室長、安達企画指導専門職、水野事業推進室員	計	3名

(●事務局 ○部会長 □委員)

●事務局

資料確認、会議時間確認、欠席委員報告

○部会長による議事進行

○部会長

本日は5議案あるので、1議案15分程度で進めていく。

○部会長

議題1：「平成28年度利用促進アクションプラン実施状況」について事務局から説明を願いたい。

●事務局

(資料2)について説明

- ・年間宿泊者数：目標値71,000人のところを87,591人と16,591人の大幅増となっている。
- ・月別宿泊者数：9月・10月の宿泊者数が大幅増となっている。(韓国の団体による利用のため)
1月の宿泊者数が増加している。(自衛隊の大会参加のため)
- ・2、3月も順調に増加している。
- ・年度別宿泊総利用者数の推移でも、第3期中期目標期間(H23～27)平均との今年度の実績の比率は、19%の増加となっている。
- ・H27との比較では、19,000人の増加で、26.97%の増という結果となった。
- ・「平成28年度目標数値と現状」では、宿泊者数に加え、日帰り利用者数についても目標値の37,000人に対して39,791人と、目標値を上回る結果となった。
- ・日帰りの人数は、前回報告した人数よりも5,000名増えている。旭川西イオンへのブース出展などの出前事業や、冬の施設開放事業による日帰り参加者の大幅増による。

(資料3)について説明

- ・1-1：記載のとおり
- ・1-2：前回の報告とほぼ同じ数値
- ・1-3：青少年団体は、目標の14件に対し、新規27団体(前回よりさらに2団体増加)
- ・1-4：前回から変更なし(目標は達成しているがもう少し伸ばしたい)
- ・1-5：予定通り実施済み
- ・1-6：各対象に向けたチラシが完成し、順次配布
- ・2-1：前回の報告よりも減少(教育事業において定員に達しない事業があったため)

- ・ 2－2：プログラム体験会を計画し、実施予定（3月21日（火）に実施）
- ・ 2－3：aについては実施済み。bについてはまだ未実施（3月に実施予定）
- ・ 3－1：目標には達しなかった。（目標宿泊5団体に対して、4団体と日帰り1団体）
- ・ 3－2：目標達成予定

（資料4）について説明

- ・ H29に、年間7回の体験会を実施予定
- ・ 年度内（3月）に1回実施予定
- ・ コミュニケーショントレーニングを始めとして、ハイキングや登山などの内容で実施する予定
- ・ ウェブ申込の活用

〈議題1 質疑応答〉

○部会長

今回の報告を以って、今年度最後の報告となるが、意見はないか。

○部会長

プログラム体験会は現時点での申し込みはないのか。

●事務局

まだない。急遽の決定ということもあり、学校教員の日程が合わないのかもしれない。また、実施時期についても、週末がよいのか平日がよいのか、という議論があったが、両方の時期を交互に実施することにした。

○部会長

職業によっては、仕事として来られる場合もある。

●事務局

出張として来ていただけたらと考える。

他の施設を見てもあまり多くはないようなので、まずは毎回5人ほど参加してもらえればと考える。

○部会長

今後の経過を見ていく。

○部会長

議題2：「平成28年度施設の研修支援等に関する自己採点表」について事務局から説明をいただきたい。

●事務局

（資料5）について説明

- ・ 前回実施されていない部分が実施された。
- ・ 継続事業において、定員充足が達成できない事業が1件あった。
- ・ 法人ボランティアによる企画・参画事業については、一部について行うことができた。
- ・ H28 総合点は101点で96.2%の達成度
- ・ 事業の定員が満たなかったという課題については、次年度は「自然体験活動指導者養成事業」において、機構本部の了承の下、定員を30名から20名に下げてし、なおかつ開催時期を変更することで改善を図る。

- ・ボランティアの自主企画事業については、秋にボランティアが自主的に企画する事業を予定しているので、そこでボランティアの資質向上を期したい。
- ・なお、次年度はこの自己採点表は実施しないという本部の方針があるが、今後も、大雪では施設独自の目標として活用していきたい。

〈議題2 質疑応答〉

○部会長

自己採点表が今年度限りの施行というのは、あまりにもいい加減ではないか。このことは、ぜひとも本部に伝えていただきたい。

●事務局

報告を行う。

○部会長

自己採点表は施設の自己点検にもなるので、今後も継続して行ってほしい。

●事務局

継続する。

○部会長

議題3：「平成28年度自己点検・評価（最終）」について事務局から説明をいただきたい。

●事務局

（資料6）について説明

- ・2-3における危機管理マニュアルについての見直しが現時点ではできていないので、評価は「B」としている。
- ・1-1、1-2については大幅な増加があったので、「S」と評価させていただいた。
- ・その他についても、概ね達成できたと考えられるので「A」と評価している。

（資料7）について説明

- ・特筆事項1：全国28施設中1位の宿泊利用者数増
- ・特筆事項2：機構本部の「500万人利用達成」のための目標・行動計画に沿った新規事業の実施
- ・特筆事項3：対象別のリーフレット作成・配布
- ・特筆事項4：イオンショッピングモール旭川西店での単独ブース出展による、企業グループでの宿泊申込や、大雪冬のレクスポーツ祭典への宿泊参加、H29 家族向け事業「たびうさぎファミリー」への参加希望などの成果
- ・特筆事項5：プログラム体験会の開催、利用者アンケート「総合的な満足度」における「満足」の88.5%という高水準の維持

〈議題3 質疑応答〉

○部会長

報告について、意見はないか。

○部会長

危機管理対策の整備については、状況に応じて変化するものであり、一朝一夕でできるものではないので、活動コースの整備をきちんと行っているのであれば、評価は「A」としてもよいのではない

か。Facebookを見ても、日頃から職員がコース整備を行っているのはよく見えるので。「A」評価でよいと思う。

●事務局

評価を「A」へと改めさせていただく。

○部会長

次年度以降、今年度増えた宿泊人数をどう維持するかが課題ではあると思うが、今年度についてはオリセンも含めた中で1位というのはよい。

利用者数の確保については「S」でよい。ある種「棚からぼたもち」的なところもあるが、増えた利用者が途中で退所せずに予定期間で利用したので、よいと思う。

□委員

次年度は大変と思うが、今年度はよかった。

○部会長

議題4：「平成29年度運営計画」について事務局から説明をいただきたい。

●事務局

（資料8）について説明

- ・計画の組み立ての大幅な変更について
- ・別紙2・3の内容と利用促進部会との関わりについて
- ・学習指導要領に対応した活動プログラムの整理・資料化及び提示
- ・青少年団体及び指導者への積極的な支援（84%以上の満足を得る。）
- ・外部研修指導員制度導入についての検討
- ・各プログラムのてびきの作成・整理（ねらい、活動内容、留意点等）
- ・新規プログラムの開発
- ・別紙3利用者確保について（11万1千人以上）
- ・学校利用促進広報について
- ・民間等地域の様々な主体と連携した利用促進方策の検討

〈議題4 質疑応答〉

○部会長

資料の表現がこれまでの運営計画から少し変わっている。

●事務局

方針をまずは大きく提示したり、基本事項については省略したりと、内容の整理を図った。

○部会長

アンケートの絶対満足が84%以上とあるが、高水準を維持するのはかなり厳しい。機構本部はなぜそのような要求をするのか。根拠が不明。

アンケートは代表者からとるのか。分析は難しいと思われる。

●事務局

アンケートについては、数値も重要だが、その数値に至った理由について分析し、改善を図っていくための指針とする。

○部会長

アンケートに頼り過ぎない方がよいと思う。

○部会長

学校利用促進の方策としては、各学校に訪問に行くのか。

●事務局

出張等の機会を利用して、各学校に直接訪問し、広報していきたい。ただし、道立の施設と利用者の取り合いにならないように配慮していく必要がある。

○部会長

なかなか難しい。普通の企業の飛び込み広報のようにはいかない部分もある。

●事務局

学校の先生から何かご意見をいただきたい。

□委員

ていねいに説明もしていただいているのだが、学校も様々なところとつながりがあるので、一概に希望に沿うのは難しい。

○部会長

例えば、ある学校の管理職から利用していただけるという話があっても、その管理職の異動によって次年度につながらない場合もあるので、難しい。しかし、広報そのものは無駄ではなく、各学校によっては、取り組ませたい体験活動があれば、それを体験させる機会にもなる。

□委員

隣の町の東川町にはかなりの数の留学生が来ているそうだが、そういう学校には広報を行っているか。

●事務局

行っていない。

□委員

留学生の数は結構多いので、広報に当たってみるとよいのではないか。

●事務局

早速行ってみたい。

○部会長

H29 年度の交流の家との共催事業、婚活の予定はあるか。

□委員

次年度はもっと規模を大きくすることを検討しており、東京等の企業との連携を考えている。

□委員

アジアなどの、国外の青少年団体に向けて広報を行うというのはどうか。

●事務局

中国、香港の団体による、音楽交流会などの活動が行われたという前例が既にある。

□委員

SNS を活用できないか。

●事務局

既に行っているが、そこからの広がりがなく、利用に繋がってはいないように思える。

□委員

利用した人がSNSで発信してくれるとよいのではないか。

○部会長

外国から、日本に青少年教育について視察が来ていることもあるが、そこに向けた広報も可能ではないだろうか。

□委員

ホームページがスマートフォン対応にはなっているのか。

●事務局

一部英語対応にはなっているが、スマートフォン対応にはなっていない。

○部会長

大雪の存在を知らない外国人がまだまだいるのではないか。

□委員

青少年交流の家の名称を思い切って変えてみてはどうか。例えば、現状では、青少年のみを対象にしているような印象も受ける。

□委員

外国人で施設を利用した人が、その後も継続して利用し続けていき、多くの人に向けて情報を発信してくれるのも望ましい。

●事務局

美瑛町とゆかりのある中国の団体が、施設を紹介してくれている部分もあるので、地域の協力はありがたい。

○部会長

3月頃の、入学・卒業時期にある外国人の学生に向けた広報のために、各学校に紹介していただくというのもどうか。

□委員

美瑛町で開催される「ヘルシーマラソン」での宿泊施設として宣伝はしているのか。

●事務局

美瑛町としては、白金温泉施設を紹介しているので、民業を圧迫しないような配慮も必要と考えられる。

○部会長

以上の議論を踏まえて、運営計画の加筆修正を行ってほしい。

○部会長

議題５：「平成２９年度利用促進部会計画」について事務局から説明をいただきたい。

●事務局

（「新しい公共」型施設運営のための利用促進部会計画（案））について説明

・部会で検討した内容を踏まえて、加筆修正していく。各委員には、完成したものを新年度運営計画として確認していただきたい。

議事終了

○部会長

部会で出た意見をまとめて、本会議で報告する。予定された議題は以上。事務局から何か追加はあるか。

●事務局

追加はない。